

片岡輝賞

選んだ先生からの一言

重度の自閉症で音声によるコミュニケーションに困難を抱える7歳、支援学級の1年生です。2歳の頃から文字や数字に興味を持ち、6歳ごろから電子手帳のキーボードで自分の気持ちを表現するようになりました。この詩はキーボードを使って1ヶ月かけて書いたもので、学校に通えるご家族のご苦勞を称え、賞を贈ります。

「みんなだいすき」

(神奈川県／小学1年)

あいやおだやかさが
おおきなえをえがく
ばわーはおおきなやさしさをたすける
おおうそはきぼうがいやしてくれる
たいようがてらすいえは
おおいあいをいやして
ふおろーしてくれる

おそとにさがしにいった

うれしいらいおんさんが
たのしくさけんでる
たかいばわーをだす
おおいあいがさいこうのそらをえがいてくれる

いえをでてもあたたかい
たいようがあった
そとにもあいが
あることをしった

講評

作者の頭の中を知ることができたことを心から嬉しく思います。「いえをでてもあたたかいようがあった」という一文に心が震えます。家族や友だち、先生からの愛をしっかりと受けとめ、こんなにも豊かな感情を持ち、表現することができたんですね。これからも、こんな風に想像以上に成長した姿を見せてくれることがきっとあるでしょうね。作者とお母さんの頑張りにつながります。大切なことを教わりました。